

---

# 嘆き、もしくはその連鎖

瀧川 蒼

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

嘆き、もしくはその連鎖

### 【Nコード】

N5282I

### 【作者名】

瀧川 蒼

### 【あらすじ】

リーマンの報われない恋の話。

ほのぼの、ですかねえ。

嘆いたとて、その身から追い出すことが出来るのはいつもと変わりのない吐息のみ。ひとたび言葉にすればあまりにも典型的な愚痴になるのである。それらを、身の内から零して他人に負わせることは、非常に非生産的な行為であると分かっている。

それでも吐かずにはいられないのは、やりきれない、処理しきれない感情のためだ。

「いや、わかってんのよ、オレにも？ ナオが追っかけてるのは別の女だってこと」

俺の目の前でこたつに突っ伏して泣き言を言っているのは、幼なじみの腐れ縁だ。

片付けるのも面倒になって山になったビールの空き缶が、俺たちが飲み始めてからの時間を表している。

(そろそろ日付も変わるんだがな……)

「オレだって、今更付き合いたいなんて思ってもないけどさあ」

とろん、とした目つきで尚も愚痴をこぼしつつ、手元にある缶を片手でもて遊ぶ。その目が、ちらりと確認するように俺を見る。

「知ってるよ。ナオと会ってからもう7年だもんな？」

「うん。オトモダチ関係壊したくねーもん」

話の流れを知っている 長年の付き合いというよりは、こんなふうに愚痴を聞かされるが多すぎるのだ 俺が先を促すように言つと、そいつはぐすつと涙を噉った。

(子供みてえ)

いつもであれば理知的に見える目元、すつと通った鼻梁。いつも笑みを浮かべている薄い唇とスタイルのよい長身。会社の内外問わず非常に女性に人気なコイツは、だが、どこの神様のいたずらか、同級生で同性の尚紀に対して大学以来の片恋をしている。

そして幼なじみで大学まで同じだった俺は、ずっとコイツの愚痴の吐き出し場を提供し続けていた。

「でもなー、もういいかげん報われないまんまは辛いんだ」

酒のせいだけではない、弱々しい声を出すそいつの頭を、俺は無言のまま片手でぐしゃぐしゃとかき混ぜてやる。

「やめろよお」

抗議の声が聞こえるが無視だ、無視。

「ばあか、それでも諦めきれないんだろ」

「……うん」

やっと素直な言葉が返ってきたから、ゆつくりと髪型を整えるように髪を梳いてやる。色素の薄い、しなやかな髪が俺の手のひらの下でちいさな音を立てた。

俺はどれだけコイツが尚紀のことを想っているかを知っている。

友情であると信じて疑わない尚紀を傷つけないがため、自分の気持ちに気づいてすぐ、それを尚紀に伝えることを諦めたこと。それでもやっぱり気持ちが高ぶってどうしようもない時には、こんな風に俺に愚痴をいうことで自分の決意を上書きしていることを知っている。

寄ってくる女と遊ぶわけでもない。誰か他の相手を探すわけでもない。

腐れ縁を続けている俺でも驚くほどに、一途に尚紀を想っている。子供みたいに体温の上があった頭を、俺は静かに撫で続ける。そろそろコイツも酔いつぶれる頃だ。

「……ありがとな」

小さく呟いた声が聞こえて、めずらしくも殊勝な言葉に顔を覗き込むと、もう寝息を立てていた。

酔いで赤らんだ目元に、小さな雫が残っている。

苦笑して、毛布でも持って来てやるか、と俺はこたつから立ち上がった。

(ホントに愚痴を零したいのは俺だっつーの)

背を向けた相手に万一にも聞かれないよう、こっそりと胸の内  
で呟く。

またしても長年の想い人と二人っきりの空間で、長い夜を越えな  
くはならなくなった訳で。

分かった上で愚痴に付き合っただけなのに、

「俺も馬鹿だよなあ」

15年になるつかという気持ちの重さ。ため息をつくくらいは見  
逃してほしいというものだ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5282i/>

---

嘆き、もしくはその連鎖

2011年1月22日14時28分発行